

1. 科目名 (単位数)	英語学Ⅱ (英語の発音と音声) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2307
2. 授業担当教員	志手 和行	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、プレゼンテーション		
6. 履修条件・他科目との関係	特になし。		
7. 講義概要	英語音声学の入門書をテキストとし、英語教員を目指すものにとって必要不可欠な英語の発音や音声について基礎的な知識を身につけ英語学的知見を養う事を目標とする。具体的には、音声器官、母音や子音の分類と発音の仕方、音の連結、アクセント、イントネーションについて学習し、実際に英語の発音を聞き取り、自らも発音練習をする。受講生は、近い将来、教育現場で発音指導にあたる事を念頭に置き、自らの英語の発音の矯正に努め、学習した事をどのように教育現場で活かせるか、考察することになる。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界には様々な英語があるが、英語教員志望の受講生にとって必要不可欠な英語の発音と音声に関する基礎的な事項を理解することができる。</li> <li>2. 将来英語を教える時、児童生徒の発音指導ができるように、まず、正しい発音を聞き取る力と調音する力を向上させ、教師として相応しい手本を示せるようになることができる。</li> <li>3. 学んだ英語の発音と音声の知識を活かし、教育現場で楽しくかつ効果的に英語の発音指導ができるような教え方の素地を養うことができる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内容の理解を深めるために予習・復習としてテキスト内の問題 (主にリスニング) を毎回課す。</li> <li>2. 理論的知識を更に応用することができるよう、長期休暇中の課題として発音と音読の演習問題を課す。</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 今井由美子 他著『英語音声学への扉ー発音とリスニングを中心に【改訂版】』英宝社。</p> <p>【参考書】 竹林滋・斎藤弘子『新装版 英語音声学入門』大修館書店。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界には様々な英語があるが、英語教員志望の受講生にとって必要不可欠な英語の発音と音声に関する基礎的な事項を理解することができるようになったか。</li> <li>2. 将来英語を教える時、児童生徒の発音指導ができるように、まず、正しい発音を聞き取る力と調音する力を向上させ、教師として相応しい手本を示せるようになることができたか。</li> <li>3. 学んだ英語の発音と音声の知識を活かし、教育現場で楽しくかつ効果的に英語の発音指導ができるような教え方の素地を養うことができたか。</li> </ol> <p>○評定の方法 以下の点を総合して評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業中の態度・積極的参加度 総合点の 30%</li> <li>2 小テスト及びレポート課題 総合点の 40%</li> <li>3 期末テスト 総合点の 30%</li> </ol> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	英語音声学の基礎知識を身につけることは、2 技能 (リスニング・スピーキング) の向上に寄与すると考えられる。授業中に扱える内容は限られており全てを説明することはできないため、授業外でも積極的に学習を進めていって欲しい。特に教科書付属の DVD+CD を十分に活用してもらいたい。また、自分の好きな洋画や洋楽を直接聞くことで発音に慣れ親しむことも良い練習になる。継続して学べるやり方を自ら見つけて英語力の底上げを図っていこう。		
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	発音記号の載っている英和辞書を準備し講義へ臨むこと。
		事後学習	テキストを概観して授業の流れをつかむ。
第 2 回	母音について (1) 前舌母音	事前学習	テキスト Unit 1 (pp. 4-5) を読み、音声のしくみと母音について理解しておく。
		事後学習	Practice 1 前舌母音をより正確に聞き取れるよう、付属 CD を通じて繰り返し練習する。
第 3 回	母音について (2) 後舌母音	事前学習	既習の発音記号を見て発音できるようにしておく。
		事後学習	Practice 2 後舌母音をより正確に聞き取れるよう、付属 CD を通じて繰り返し練習する。
第 4 回	母音について (3) 中舌母音	事前学習	既習の発音記号を見て発音できるようにしておく。
		事後学習	Practice 3 中舌母音をより正確に聞き取れるよう、付属 CD を通じて繰り返し練習する。
第 5 回	母音について (4) 二重母音	事前学習	既習の発音記号を見て発音できるようにしておく。
		事後学習	母音全体をより正確に聞き取れるよう、付属 CD を通じて繰り返し練習する。
第 6 回	子音について (1) 閉鎖音と鼻音	事前学習	Unit 1 (p. 16) を読み、子音について理解しておく。
		事後学習	Practice 6&7 閉鎖音と鼻音をより正確に聞き取れるよう、付属 CD を通じて繰り返し練習する。
第 7 回	子音について (2) 摩擦音	事前学習	既習の発音記号を見て発音できるようにしておく。
		事後学習	Practice 8 摩擦音をより正確に聞き取れるよう、付属 CD を通じて繰り返し練習する。
第 8 回	子音について (3) 摩擦音と破擦音	事前学習	既習の発音記号を見て発音できるようにしておく。
		事後学習	Practice 9 摩擦音と破擦音をより正確に聞き取れるよう、付属 CD を通じて繰り返し練習する。

第9回	子音について (4) 側音と半母音	事前学習	既習の発音記号を見て発音できるようにしておく。
		事後学習	子音全体をより正確に聞き取れるよう、付属CDを通じて繰り返し練習する。
第10回	音節と強勢	事前学習	Lesson 1&2 (p.32&34) を読み、強勢について理解しておく。
		事後学習	強勢をより正確に聞き取れるよう、付属CDを通じて繰り返し練習する。
第11回	ポーズ、ピッチとイントネーション	事前学習	Lesson 3&4 (p.36&38) を読み、ポーズ、ピッチとイントネーションについて理解しておく。
		事後学習	ピッチとイントネーションをより正確に聞き取れるよう、付属CDを通じて繰り返し練習する。
第12回	音のつながり (1) 連結	事前学習	Lesson 5 (p.40) を読み、連結について理解しておく。
		事後学習	連結をより正確に聞き取れるよう、付属CDを通じて繰り返し練習する。
第13回	音のつながり (2) 脱落	事前学習	Lesson 6&7 (p.46&48) を読み、脱落について理解しておく。
		事後学習	脱落をより正確に聞き取れるよう、付属CDを通じて繰り返し練習する。
第14回	音のつながり (3) 同化	事前学習	Lesson 8 (p.50) を読み、同化について理解しておく。
		事後学習	同化をより正確に聞き取れるよう、付属CDを通じて繰り返し練習する。
第15回	英語音声学に関する総括	事前学習	既習事項を整理して、不明瞭な点があれば質問の準備をしておく。
		事後学習	既習事項の総復習をして試験に備える。
期末試験			